

虐待防止のための指針

(一社)はなみずき特別支援研究所
放課後等デイサービスはなみずき

1 基本理念

本事業所は、利用者(利用児童を含む。以下同じ。)への虐待は、人権侵害であり、犯罪行為であると認識し、関係法令に基づき、虐待の禁止、予防及び早期発見を徹底するため、本指針を策定し、すべての職員は本指針に従い業務にあたることとする。

2 虐待の定義

身体的虐待	暴力的行為などで利用者の身体に外傷や痛みを与える、若しくは生じるおそれのある行為を加えること、又は正当な理由なく身体を拘束すること。
介護・世話の放棄・放任	利用者を衰弱させるような著しい減食、又は長時間の放置その他利用者を擁護すべき職務上の義務を著しく怠ること。
心理的虐待	利用者に対する著しい暴言、又は著しく拒絶的な対応その他利用者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。
性的虐待	利用者にわいせつな行為をすること、又は利用者にわいせつな行為をさせること。
経済的虐待	利用者の財産を不当に処分すること、又は利用者から不当に財産上の利益を得ること。

3 虐待防止に係る検討委員会の設置

- (1) 本事業所は、虐待の防止及び早期発見への組織的対応を図ることを目的に「虐待防止検討委員会」(別表)を設置することとする。
- (2) 虐待防止検討委員会は、年1回以上開催する。虐待発生の際には、都度、開催しなければならない。
- (3) 委員会の協議事項は次のとおりとする。
 - ① 虐待防止のための指針、マニュアル等の整備及び職員への周知に関すること。
 - ② 職員の人権意識を高めるための研修計画の策定に関すること。
 - ③ 虐待予防、早期発見に向けた取り組みに関すること。
 - ④ 虐待が発生した場合に、その対応に関すること。
 - ⑤ 虐待の原因分析と再発防止策に関すること。

4 虐待防止のための職員研修に関する基本方針

- (1)職員に対する権利擁護及び虐待防止のための研修は、基礎的内容等の適切な処置を普及・啓発するものであるとともに、本指針に基づき権利擁護及び虐待防止を徹する内容とする。
- (2)研修は年1回以上実施することとする。また、新規採用時には別途虐待防止のための研修を実施することとする。
- (3)研修の実施内容については、実施要項、資料、出席者名簿等を記録し、保存することとする。

5 虐待が発生した場合の対応方法に関する基本指針

- (1)虐待が発生した場合は、速やかに上尾市に報告するとともに、その要因の速やかな除去に努める。客観的な事実確認の結果、虐待者が職員であった場合は、役職位等の如何を問わず、厳正に対処する。
- (2)緊急性の高い事案の場合は、上尾市及び警察等の協力を仰ぎ、被虐待者の権利と生命の保全を最優先する。

6 虐待が発生した場合の相談報告体制

- (1)利用者、利用者家族、職員等から虐待の通報を受けた場合は、本指針に従って対応することとする。
- (2)利用者の居宅において虐待等が疑われる場合は、関係機関に報告し速やかな解決につなげるよう努める。
- (3)事業所内で虐待等が疑われる場合は、管理者に報告し速やかな解決につなげるよう努める。
- (4)事業所内における利用者虐待は、外部から把握しにくいことが特徴であることを認識し、職員は日頃から虐待の早期発見に努めなければならない。
- (5)事業所内において虐待が疑われる事案が発生した場合は、速やかに虐待防止検討委員会を開催し、事実関係を確認するとともに、必要に応じて関係機関へ通報する。
- (6)必要に応じて、事実を公表し関係機関や地域住民等に説明を行う。
- (7)虐待が発生した場合の対応については「市町村・都道府県に高齢者・障害者虐待への対応と擁護者支援について(厚生労働省老健局)」を参考に対応することとする。

7 成年後見制度の利用支援

利用者及びその家族に対して、利用可能な権利擁護支援等の情報を提供し、必要に応じて、上尾市の関係窓口を案内するなどの支援を行うこととする。

8 虐待に係る苦情解決方法に関する事項

- (1)虐待等の苦情相談については、苦情を受付けた内容を管理者に報告する。

(2)苦情受付相談窓口で受け付けた内容は、個人情報の取扱いに留意し、相談者に不利益が生じないよう細心の注意を払って対処する。

(3)相談受付後の対応は、「6 虐待が発生した場合の相談報告体制」に依るものとする。

(4)対応の結果は相談者にも報告することとする。

9 利用者に対する指針の閲覧 職員、利用者及びその家族をはじめ、外部の者に対しても本指針をいつでも閲覧できるよう、事業所に備え付けることとする。また、本協議会のホームページにおいても公開する。

10 その他虐待防止の推進のために必要な事項権利擁護及び虐待防止等のための内部研修のほか、外部研修にも積極的に参加し、利用者の権利擁護とサービスの質の向上を目指すよう努めることとする。

附 則 この指針は、令和 5 年 6 月 1 日から施行する。

虐待防止検討委員会の責任者	代表理事
虐待防止対策の担当者	事業所管理者
各担当職員のチェックリスト、ヒヤリハット事例の報告・分析	事業所児童発達管理責任者及び支援員
第三者、専門家	必要に応じて法人役員を加えることができる
保護者代表	必要ある場合に加えることができる

虐待早期発見チェックリスト

子どもの様子

身体に関すること

- 通常の生活では発生することのない部位への受傷
- 骨折・アザ・火傷などを繰り返す
- 不自然な打撲傷、新旧混在するあざがある
- 性器の外傷がある
- 外傷に対する説明が不自然であったり、説明を嫌がる
- ケガや病気にもかかわらず受診していない
- 脱水症状、栄養障害がみられる
- 全身に湿疹・かぶれがある
- 特別な病気がないのに身長・体重の増えが悪い
- だるさや不調をだげさに訴え、手当をしつこく求める

生活に関すること

- 衣服や体がいつも不潔である(お風呂に入っていない)
- 同じ服を何日も着ている・着替えをしていない
- 給食やおやつの過度の早食いが見られる
- 食事への極端な執着がある
- 午睡時に過度の緊張・興奮が見られる
- おねしょが頻繁に起こる
- 午睡時に保育者が近寄る事を拒否したり過度な独占をする

行動・態度に関すること

- 警戒心が過度に強く集団に入れない
- 身体接触を嫌がり、ささいな刺激で身を硬くする
- 年齢不相応な性的言葉や性的行動が見られる
- トイレや物置など特定の場所を嫌がる
- 大きな音や耳慣れない音に過度に反応を示す
- うるさくないのに「うるさい」ということがある
- ケガにつながるような行動を平気で行う
- 人や生き物に対して攻撃的・残忍な態度をとる
- 自分や他人の性器に異常に関心を持つ
- 保育者への試し行為を繰り返す
- 保育者の独占欲が過度に強い

保護者との関係に関すること

- 保護者を過度に怖がり、萎縮している
- 保護者がいると安心して遊べなくなる
- 保護者と平気ではなれる、誰にでもまつわりついてあまえる
- 保護者のいない時に保護者のことをやたらと口にする

保護者の様子

- 何かしら理由をつけて保育園を欠席することが多い
- 送迎時間が不安定で、連絡がつかないことがよくある
- 子どもへの攻撃的・強迫的な態度を示す
- 子どものケガや病気についての説明に一貫性がなく、つじつまが合わない
- 行きすぎたしつけ、体罰を肯定している
- 子どもに年齢・発達上不適切な期待をする
- 子どもを無視したり、子どもの人格を否定するような関わりをする
- 子どもの世話をしようとせず、無関心な様子が見られる
- 予防接種・健康診断が未受診、子どもの疾患への放置が見られる
- 対人関係が敵対的で、トラブルを起こすことが多い
- 子育てにストレスを感じている
- 地域や実家から孤立している状況がある
- 家庭内に著しい不和や配偶者間暴力がある
- 家庭内が著しく不衛生である
- 勤務先が頻繁に変わったり、働く意思が見られなかったりする
- 保育士が話しかけても避ける態度をとったり、サポートを拒んだりする